

第3回草津市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

日 時 令和2年3月9日（月）14：00～16：15

場 所 草津市役所4階 行政委員会室

出席者（委員） 飯田委員、伊庭委員、麻植委員、北村委員（欠席）、酒井委員、佐山委員、清水委員、壽崎委員、塚口委員、辻野委員、中谷委員、中村委員、本間委員、宮下委員、宮本委員（50音順）

（事務局） 都市計画部：辻川部長、東理事、松尾総括副部長

都市計画課：一浦課長、青木係長、山本主任

昭和（株）：虎見、古賀、森山、高井

傍聴者 1名

1 開 会

辻川部長	<p>都市計画部長の辻川でございます。</p> <p>本日は、委員の皆様におかれましては、公私御多用のなかを、当委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、新型コロナウイルスの関係で予断を許さない状況ではありますが、本日の委員会の開催について、御理解と御協力をいただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。事務局では消毒液の備え付けとマスク配布の対応をとっておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>さて、本日は、前回の策定委員会での御意見を反映して実施いたしました市民アンケート調査の集計結果、および第1回地域別市民会議の開催結果について御報告いたしますとともに、次期都市計画マスタープランにおける『主要課題、まちづくりの理念・目標』、『(仮称)まちづくりフレーム』、『将来の都市構造』の各案について説明させていただきます。各委員のお立場から、広くご意見をお聴きしたく存じます。</p> <p>委員の皆様には、本日も活発な御議論をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>どうぞよろしくお願いたします。</p>
------	--

2 検討事項

(1) 第2回策定委員会の振り返り

(2) 第3回策定委員会での検討の流れおよび論点

資料1	第2回策定委員会での意見および対応（案）
資料2	第3回策定委員会での検討の流れ
資料3	本日ご議論いただきたい事項（論点案）
委員長	第3回策定委員会での検討の流れ、論点案については、これからの議論で振り返ることにしてまいしょう。

(3) 国の分析ツールを用いた都市構造の分析

(4) アンケート調査の集計結果

(5) 第1回地域別市民会議の開催結果（概要報告）

資料4	国の分析ツールを用いた都市構造の分析
資料5	アンケート調査の集計結果
資料6	第1回地域別市民会議の開催結果（概要報告）

委員	<p>資料4の国の分析ツールを用いた都市構造の分析において、「安全・安心」の分野の指標が3つしかないのはなぜでしょうか。</p> <p>また、市民一人あたりの交通事故死者数について、どこの道路でどういう原因で起きたのが重要であり、深く掘り下げ反映していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>警察の情報となるため、調べられるか確認します。市民一人あたりの交通事故死者数は交通量が大きく影響していると思いますし、道路構造も含め事故の状況が確認できればご提示させていただきます。</p> <p>交通量が大きく影響するのであれば、交通量をどうしていくのかを検討していかなければならないと思います。</p>
委員	<p>ある委員会で、資料を提出していただけないかとお願ひしたところ、警察の方は出せない、かなりガードが固いと思います。ただ、事故は件数だけではなく、どういう状況により発生したのかをみていかなければ、判断を誤ることも起こりえるため、提出いただけたものは提示していただきたいです。</p>
委員	<p>開発許可面積（調整区域/市街化区域）について、草津市は調整区域での許可が多いため偏差値50を下回っていると思います。</p> <p>調整区域の開発については、市の方針に基づいた現行の都市計画マスタープランや都市計画の内容からすると、予定したとおりなのか、それとも予定外なのでしょう。</p>
事務局	<p>現行の都市計画マスタープランにおいては、都市計画法第34条11項に基づき、調整区域でも開発を誘導できる施策をとっています。</p> <p>草津駅及び南草津駅の乗降客数が滋賀県内で1番と2番であり、人口が増加しているのは、調整区域の開発が比較的ゆるやかに進められていることが要因であると思っています。</p> <p>一方で、小・中学校を統合していくなかで調整区域の開発によりマンモス化も招いてもおりますが、草津市の活力の要因になっています。</p>
委員	<p>マイナンバーカードにより、コンビニで住民票の取得などができるようになりました。そうすると市役所に行く、公共交通を使って外に出かける理由は何があるかが問われます。</p> <p>情報社会により、買い物もネット通販により宅配で受け取るというように変わっていくなか、今、交通が不便であるからといって、若者の意見を取り入れずに道路に投資する議論を進めてよいのか。アンケート調査の回答は年齢が高い方が多く、若者の生活様式についても考慮するべきだと思います。</p>
事務局	<p>高齢化社会のなかで、病院や駅前に買い物に行かれることもあれば、ネット通販で宅配されることも社会潮流においてもご説明しましたが、それらをみすえながらご議論いただければと思っています。</p> <p>20年先の市民の皆さん・若い方も高齢者もいらっしゃるなかでのまちづくりを検討いただければと思っています。</p>
事務局	<p>資料5の27ページ「重点的に進めるべきまちづくりの分野」をご覧ください。</p> <p>30歳代以下、40～50歳代、60歳代以上という区分にしていますが、60歳代以上は「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」が他の世代に比べて高い結果です。</p> <p>一方、30歳代以下では「安全な交通環境の形成」が、40～50歳代では「地震や水害</p>

	<p>などに対応できる防災・減災のまちづくり」が他の世代に比べて高くなっています。各分野の世代別の結果も次頁以降で見ただけできるようになっています。</p>
委員	<p>資料5では「満足度」と「重要度」としてグラフを作られています。重要度はアンケートが選択肢の中から2つずつ選ぶ方法で、その選択肢が選ばれた割合ですので、「関心度な」どの言葉にした方がよいような気がします。</p>
委員	<p>資料6で、学区ごとに地域別市民会議を開催されていますが、総合計画の地域別懇談会と同じようなやり方で概ね同じメンバーとなっています。</p> <p>総合計画と同じような意見が多数出ていると思いますので、すみ分けをしていただきたいと思っています。</p>
事務局	<p>総合計画では昨年、中学校区ごとに開催しました。</p> <p>都市計画マスタープランで1月から地域別市民会議を開催した際には、総合計画でいただいた意見を都市計画の分野ごとに整理したものを示したうえで、意見をうかがいました。</p> <p>また、総合計画の方は1回で終わりですが、都市計画マスタープランでは2回目を開催し、20年後の地域をどうしていくのか議論しながら、より良い地域づくりを進めていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>もう一度、資料5をご覧ください。地域による違いを事例で簡単に説明します。</p> <p>41頁の志津学区の満足度と重要度の評価をみますと、志津学区はまちなかから少し離れており、公共交通機関が不満で重要となっています。</p> <p>97頁の玉川学区は南草津駅の駅前ですので、「安全な交通環境」や「防犯対策」が重要となっています。</p> <p>まちなかではどの分野でも満足度が高い傾向にあり、周辺部では公共交通機関や道路の渋滞などの不満があり、私たちの普段の感覚と近いと思います。これらを踏まえ、施策・事業について地域別市民会議で議論していければと思っています。</p>
委員	<p>資料6の44頁「湘南電気」は「湖南電気」の間違いです。</p> <p>また、総合計画と都市計画マスタープランの違いをはっきり示す必要があります。都市計画マスタープランはインフラ整備や利便性を進める計画です。</p>
委員	<p>総合計画は草津市で最上位に位置付けられ、市の課題等をすべて視野に入れながら取りまとめるものです。都市計画マスタープランは、フィジカルプランとして施設をつくるだけでなく、制度をつくり誘導していくものです。</p> <p>ただ、きちっと分けすぎると議論の幅が広がりませんので、フィジカルプランである都市計画についてということを念頭に置きつつ、発言はやや柔軟にさせていただいても結構ではないかと思っています。</p> <p>総合計画が作成中ですので、都市計画マスタープランで議論したことが上位計画である総合計画においてもうまく位置付けられるよう、工夫をしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>資料5のアンケート調査の回答率の高さに驚いています。</p> <p>3,000通のうち1,037の回答で、3分の1の方が返事をする意欲をもっていらっしゃる。私たちが計画を立てるに当たり、心しておかなければならないと思います。</p> <p>年代別にみても、各世代ともにきちんと提出していただいていることを鑑みると、市民の声を聞くことが一番大事な手法であるということを再確認していただいたと思っています。</p>

	学区ごとの集まりで発言いただける方、アンケートであればご意見をいただける方、今後、ネットなども含め、たくさんの市民の声を反映していくうえで、草津市民は関心があるということを確認させていただきました。
委員	資料4において、強みを伸ばすのか弱みを補填するのか、それによって都市計画マスタープランの方向性が変わるとおっしゃいましたが、ここが一番重要な議論だと思います。平均的なまちを目指すのか、もっと個性的なまちを目指すのかということをお委員の皆さんにご意見をいただきたい。 高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合が低いとありますが、草津川跡地に長い公園ができたことで、随分変わるでしょうし、お年寄りが田園地域を散歩されている姿を頻繁に見ます。自然の多い草津市において、人工的な公園をたくさん作った方がいいのかなどの議論があり、偏差値よりも草津市としてはどうすべきか議論したらよいのではないかと思います。 若い人の人口を増やすため都市的土地利用を増やすのか、自然と共存していく形とするのか、私は共存させていただきたいという意見です。
委員	資料4の空き家率は高い方がいいのですか。指標により高い方がよいのか、低い方がよいのか変わってくると思います。
事務局	空き家率は少ないほど偏差値が高いということになります。
委員	空き家率は安全・安心の分野にありますので、防犯や防災上の問題という観点で捉えられており、そういう意味では空き家が少ない方がよいということでしょう。
委員	誤解を招かないように、よく伝わるようにしていただいた方がよいと思います。
事務局	検討させていただきます。
委員	平均偏差値を50とするのは国の資料もそうなっているのですか。
事務局	各指標の偏差値は50を基準にしたなかで、50より上か下かを示しています。
委員	普通に左右対称の分布であれば平均の偏差値50でそれを超えていけばよい方で、それより下であれば悪い方となると思いますが、極端に偏っている場合はそのようには置けないと思います。 資料が出てしまえば、これが草津市の状況だと皆さんが思うので、もし今後都市計画マスタープランのなかでこの図を公表していくのであれば、内容を吟味しておくべきだと思います。 市民一人当たりの自動車総走行台キロにおいて、草津市では自動車保有台数が多いようですが、50よりも外側に来ています。実感とこの値を照合されていますか。
事務局	そこまではできていません。都市計画マスタープランに指標が少ないため、見える化をするべきとの意見をいただいていたので、参考として国交省が作成している全国的な平均と比較した資料をご提示しました。
委員	実感と合っているかの突き合わせはしっかりしていただいた方がよいと思います。 1世帯当たりの車の保有台数が多い、皆さん車に乗っておられるという実態が本当であれば、要望として公共交通機関があがっていることをどう捉えるのかが、議論に関係してきます。
委員	統計というのは「それが嫌いですか、好きですか」と聞かれた場合は「嫌い」とは答えにくいですが、「好きじゃないですか、好きですか」と聞かれた場合は「好きじゃない」と答える人も多いと思います。

	この統計が実態と合わないからといって、このデータを掘り下げていくのは非常に難しいと思います。国が示したデータでもあるので、確かにそうだと思われるのであれば議論の参考とすればよいし、そうは思わないということもあると思います。参考データについて長く吟味するとなかなか前に進まないの、あくまで数字という認識で参考にしながら、議論を深めていただきたいと思います。
委員	空き家率について、これを見たときに草津市は全国平均より空き屋が多いのか少ないのか迷うことが問題という話をしています。 市街化区域における人口密度は高い方がよいのか、低い方がよいのか。 草津市の場合はおそらく一家に何台も車があり、相当車に依存した生活をしていると思いますが、このグラフで見ると偏差値 50 よりはよいことになっています。今の車に依存した生活をよい状況だと思ってよいのか、公共交通を整備してほしいという声がたくさんあがっていることから、そうではないと思います。
委員	偏差値が高いのがよいのか低いのがよいのかよくわからないと議論にならないため、そこをきちんと整理してください。
事務局	どこまでバックデータを整理できるかはありますが、まずはこの資料で、指標の補足説明はさせていただきます。
委員	ソフトに数字を入れると必ず答えが出ますから、答えが出ただけで喜んではいけない。 また、「統計でウソをつく」というものがあり、統計は慎重にかつ的確に使うようにお願いします。
委員	資料5の16頁「都市計画に関する各分野の今後の方針について」ですが、これで割合が高いところは関心が高く、今後何とかしないといけないところだと思いますが、例えば「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した安全な歩行空間づくり」は、そんなに割合は高くないですが、これに関しては進めていってほしいところですので、単に数値だけを見るのではなく、考えていただきたいと思います。
事務局	20年後のまちの姿を考えると、どういうことが大事なのかということをお皆さんでご議論いただきたいと思います。
委員	国による偏差値のデータということで、これをある程度参考にして次に進めていけばいいと思いますし、偏差値が低い指標をまず上げることは大事だと思います。 「高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合」が低いですが、10年20年先には高齢化社会が進みます。草津川跡地に公園ができましたが、そこへ行く交通手段がなかなかありません。行きたくても行けない人がかなりいると思います。 近場にある公園を利用して、若い方からお年寄りまでが話をできる場づくりを考えていくことが大事ではないかと思っています。触れ合いサロンなどがあるのですが、行きたくても行けない方が結構います。
委員	資料6の地域別市民会議は地域によってかなり違うことがよくわかりました。地域の目標、地域の必要としていることを明確にして、それに対応していくことが大事だと思います。 資料6でもある地域属性を考えないわけにはいかないと思いました。
事務局	ご指摘いただいたとおりです。地域別市民会議では夢のある話から現実の課題までいろんな意見をくださいとお願いしました。

	<p>その中で、できるものできないものがあるかもしれませんが、まずは皆さんの思いを聞かせてほしい、都市計画マスタープランに皆さんの思いを入れていきたい、という説明をしていますので、しっかり議論していきたいと思います。</p> <p>一方で、包括的に全体構想をどうしていくのかについてのご議論をいただければと思っています。</p>
委員	<p>「公共交通」、駅の近くでは「歩いて暮らせるまちづくり」に関する意見が多いです。これらをどう解決するかをしっかりと考えていかなければ、公共交通を増やすだけで解決するものでもありません。規制緩和による民間では収益があるところしか公共交通は走ってくれません。</p> <p>「歩いて暮らせるまちづくり」に向けては、買い物や病院など日常的に利用するものが近くにあるということで、そのまちづくりを考えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>用途地域の変更についても、商業系や容積率などをどのように組み合わせ、そこに何をもってくるかなどの検討が必要です。</p> <p>住みよさとしては悪くないまちだと思いますが、課題もありますので解決していく必要があると思います。</p>
委員	<p>今のご意見に対しては対応していかなければならないと思います。</p> <p>草津市で策定されました立地適正化計画、コンパクトプラスネットワークという考え方です。それから、市街化調整区域に関しては草津市版地域再生計画において郊外部に拠点位置付けてありましたので、これらをきちんと整備していくことを、都市計画マスタープランにも示すことが必要だと思います。</p> <p>「歩いて楽しいまち」については、全てそうできるかという難しいと思います。滋賀県の委員会では「歩いて楽しいって、私の家の周り何もありませんよ。」とおっしゃった方がいました。ただ、地域によって色々と工夫しなければならないということだと思いますので、今のご意見を十分に頭に入れて進めていただきたいと思います。</p>
委員	<p>資料6で「川があふれるのが怖い」といったご意見が多いと思いました。</p> <p>これに関する対応は市だけではなく県の仕事でもあると思いますが、高齢化のなか水害など起きたら大変ということもあります。国の資料による偏差値では最寄りの緊急避難所までの平均距離の指標があるだけですが、対応していかないといけないことだと思います。</p>

(6) 主要課題、まちづくりの理念・目標

資料7 主要課題、まちづくりの理念・目標	
委員	<p>都市災害については、伊佐々川や佐山川などの改修工事を早急にやっていただきたいです。</p>
事務局	<p>十分に認識しています。都市構造では表示できていませんが、全体構想や地域別構想で記載していきたい思います。</p>
委員	<p>資料7「問：草津市がめざすべきまちづくりの将来像」で回答割合が少ない「ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち」のユニバーサルデザインは、障害のある方、お年寄りの方などの特定の方に優しいまちではなく、移動困難など、生活するなかで障害がたくさんある方に視点を向けてまちづくりをすると、皆さんにとって住みやすいまちになりますというもので、外せない視点であると</p>

	<p>思います。</p> <p>ユニバーサルデザインはまちの構造として入れた方がよいのか、「視点4 “まちの安全”」で示した方がよいのか悩んでいるところです。</p> <p>新型肺炎の流行で色々な対策を打たれていても、不安が募り世情が不安定になっています。安心感を持たせられるまちづくりを大事にしなければならないと思います。</p> <p>いつ災害が起こっても車イスの人もすぐに避難できるといった常に安心のあるまちづくりが根本ではないかと思います。</p>
事務局	<p>ユニバーサルデザインはまちの生活、空間に係る大事な問題です。ご意見をうけ、安心・安全はまちの構造に入れてはどうかと思います。草津市の方針として安全・安心、そして便利で快適でユニバーサルデザインなど、皆さんのご意見をまとめていきたいと思います。</p>
委員	<p>サステナビリティ（持続可能性）は、ユニバーサルデザインも、自然環境も、雇用も必要と、非常に広範なものです。</p> <p>サステナビリティという視点は総合計画においても入っていますでしょうか。</p>
事務局	<p>持続可能なまちづくりという視点は入っているかと思います。</p>
委員	<p>滋賀県の総合計画においてはSDGsを重要視しています。このように、サステナビリティを前面に出せば、アンケート調査では出てこないが非常に重要だと位置付けられるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>資料7「問：草津市がめざすべきまちづくりの将来像」で「ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち」と「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたくなるまち」は1つのグループとして見ており、恐らく重視していないのではなく、他の選択肢で回答した可能性があると思います。</p> <p>これらの視点を網羅するようにまとめていただくことが重要だと思います。</p> <p>県でもSDGsの視点として、都市行政においては持続可能性などをどのように入れていくかという議論をしていますので、草津市の理念・目標のなかで、どう書くかはご検討いただきたいと思います。</p>
委員	<p>河川改修について、一級河川は県管理で県が取り組まなければならないものです。</p> <p>道路インフラにおいては、河川を暗渠にして道路利用したらよいのではないかという思いもあります。</p> <p>これらを含めた計画をしていただきたいと思います。</p>
委員	<p>県民・市民から、安全・安心のため天井川をどう解消するか、道路では広く安全な道路、ネットワークをしっかりとつくってほしいといったご意見があるのは承知しています。</p> <p>一方で、予算の制約があり、どう優先度を付けるかは各市・町と議論しながら進めています。</p> <p>都市計画マスタープランにどう位置付けるかについては、個別に整備予定や進捗状況などを確認したうえで書いていただきたいと思います。県としても予算の制約があるなか、何を優先するかということもありますので、丁寧に確認しながら反映していただければと思います。</p>
委員	<p>県と事務局で密な調整をしていただき、よい結論が出ますようよろしく願います。</p>

委員	<p>地域別市民懇談会において外国人労働者についてのご意見がありましたが、日本語が不便な方も一緒に暮らせるというのも1つのユニバーサルデザインです。観光のために案内表示を変えることや、国籍基準に合わせるなど言われていますが、それもまた1つのユニバーサルデザインだと思います。</p> <p>草津市が人口を維持するなかで、外国人労働者を増やすという方向で国も進めていますから、草津市もその影響を受けざるをえないと思いますので、ソフト面として考えていただきたいと思います。</p>
事務局	外国人や障害をお持ちの方、高齢者など、どのようなユニバーサルデザインを目指すのか共有していきたいと思います。
委員	地域別市民会議をされたときに、障害者の方や外国人の方などは参加されたのでしょうか。
事務局	<p>若い方はいらっしゃいましたが、障害者の方や外国人の方はいらっしゃらなかったと思います。</p> <p>個別に聞くなどの対応や、専門の視点からのご意見をいただければと思います。</p>
委員	「視点3 “まちの空間”」について説明してください。
事務局	<p>「まちの構造」と「まちの空間」については事前説明で違いがわかりにくいというご意見をいただいております、事務局でも検討していますが、「まちの構造」については土地の利用の仕方や理念について取りまとめていきたいと思っています。</p> <p>「まちの空間」については、各地域の雰囲気や魅力、賑わいなどの観点で考えており、賑わいづくりや歴史都市、自然などの地域の風土・特徴を活かしたまちづくりを検討していきたいと考えています。</p>
委員	<p>資料7のアンケート結果における「水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち」から「まちの空間」に線が伸びています。</p> <p>先ほど水害に関するご意見がありましたが、その水があることによって自然環境に恵まれているが、反面、災害のリスクがあるという、そこを調和させるという意味での空間ではないですか。</p>
委員	<p>どこどこが引っ付くかにより、この「空間」という言葉が持つ意味が変わり、災害対策は重要ですが、その資源があるからこそ自然の恵みを楽しむことができるというところがあり、一長一短だと思います。</p> <p>また、「歴史」が含まれての空間なのかにより、「まちの空間」という視点の持つ意味が変わってくると思います。</p> <p>これらをきちんと紐づけて説明しておかれなければならないと思います。</p>
事務局	河川は公共空間であり、川が持つ本来の目的のほか、憩いなどにどう生かしていくのか。また、東海道をありますので、多様な空間づくりをどう仕掛けていくのかということ、「まちの空間」で整理していきたいと思います
委員	<p>「視点1 “まちの構造”」と「視点3 “まちの空間”」の視点の置きどころがつかめていません。資料7の3頁の「視点3 “まちの空間”」には、「民間活力」や「賑わい」、「視点1 “まちの構造”」には「活力あふれる」と書いてあります。</p> <p>「構造」と「空間」という言葉について、もう少し検討する必要があるのではないかと思います。</p>
事務局	検討します。

(7) 将来人口フレーム

資料8 将来人口フレーム	
委員	「可能か限り人口維持に取り組む」いうことで、入ってくる方が減少する可能性もあるなか、住み続けられるような住みよい都市づくりを考えていくのでしょうか。それとも、用途地域等を変更し、入ってくる方を多くして人口減少の抑制に努めるのでしょうか。
事務局	自然増は少子高齢化のなか難しいと思いますので、維持していくにしても社会増をどうしていくのかという課題があります。 そのため、戦略的な土地利用として、例えば、まちなかを高度化する、まちなかのマンションは若い世代のほか、便利な駅前に高齢者の方が住まれる時代になっていますので、駅前にはサービス付き高齢者住宅を配置するなどの施策を打ちながら維持していきたいと考えています。 また、アンケート調査結果において、90%以上の方が住み続けたいと思っていますので、住み続けたいと思うのはどういうところかということ、地域別市民会議で掘り下げて聞き、土地利用に反映したいと思っています。
委員	令和2年から令和12年までに4千人増えるとなっていますが、4千人増えることにより、政策的に何か問題は出てくるのでしょうか。
事務局	例えば、1つの地域のみ人口が増えれば、高穂中学ではマンモス化していますが、小・中学校の問題が出てきます。 総合計画ではコーホート要因法を用いて推計しており、地域別の想定まではできていない状況です。
委員	ある地域では増加する可能性もあるし、減少するところも出てくる。 それらに対しては、個別の計画で取り組んでいかなければならないということでしょうか。
事務局	そうなります。 常盤学区や山田学区など人口が減っている学区もあり、駅前の地域はまだ人口が伸びています。また、50戸連たんにより開発が比較的進めやすいところでは人口も増えているところもあります。 まずは、地域の思いを聞いていきたいと思っています。
委員	このフレームにより目標点をつくり、それに向けてまちづくりの施策を打っていく作業だと思いますので、これはこれでいいと思います。 施策としては高度化や、地域を維持するため戦略的土地利用という言葉がありますので、場合によっては市街地を拡大させるという話もあるかも知れません。 一方、草津市ではコンパクトプラスネットワークを推進しているなか、市街地を拡大させるのかということもあり、このような矛盾にどのように折り合いをつけるか整理していただければと思います。
委員	県の方針との調整をお願いします。

(8) 将来の都市構造

資料9 将来の都市構造	
委員	琵琶湖側に地域再生エリアがいくつか設定されています。 資料5の142、143頁で常盤学区の「良好な住環境」「歩いて暮らせる市街地形成」「公共交通機関」の満足度が低い傾向が出ています。 全体で3割程度の回収率ですが、常盤学区だけ配布が100通程度になっているのは理由があるのですか。
事務局	学区別の人口比で配布数を設定しています。
委員	回収が35程度では、極端な意見が表に出てきやすく、意見の偏りをみると、常盤学区の満足度が突出して低いことから、本当にそうなのかと、35の回答でいいのかとなります。 もしこれでもいくのであれば、地域再生エリアでも常盤学区は別枠で見ないといけな いかもかもしれません。
事務局	常盤学区はすべて市街化調整区域の学区です。 回収が35は少ないと思いますが、地域別市民会議での意見をお伺いした感覚ですと、 そういう思いは強いと思います。定住意向も常盤学区だけが約74%と他学区と比較 して悪い。極端かもしれませんが、「家があるし住まないと仕方がない」くらいの感 覚だと思いました。 草津市版地域再生計画においても、常盤学区が最も危機感を持っている学区でもあり ますので、生活拠点の形成ができるようにしなければならぬと思っています。
委員	アンケートやワークショップの意見と、地域別のビジョンは繋がらなければならぬ と思いますので、メリハリをつけていただいた方がよいと思います。
委員	「複合連携核」の意味合いを教えてください。
事務局	福祉エリアもあり南の玄関口でもあるため、福祉と複合した核をつくっていきたく いう意味です。
委員	都市計画道路が半世紀も前からの計画があるが、未だ整備できていません。 草津市は東西を抜ける道路が難しく、高速道路、山手幹線、新幹線、京滋バイパス、 国道1号、JRを横断しないと道路が完成しないという問題もありますので、既存の 道路をうまく使えるように拡幅整備をしていただければと思います。 また、河川においては、JRより東側は平地化できておらず、住宅も張り付いている ことから、洪水が起きた時に浸水するなどの問題もあります。
委員	東西方向の道路について環状軸の位置づけがありますので、都市計画道路の整備を都 市計画マスタープランのなかで書いていただきたいと思います。
委員	交通量の資料で、東西道路の地点があまりないので、資料がないということであれば 仕方ないですが、東西道路の交通量の資料を増やしていただきたい。
事務局	東西軸の観測点がこの22年度と27年度の調査を比較するうえで絞られています。
委員	調査地点として調査は行われているのですか。
委員	前回前々回の間で観測点を変えて実施されており、比較できる観測点に絞っていま す。
委員	南の地域は大津市との関係がかなりあります。 県のマスタープランも現在作成中ということですが、どちらかという大津市と一緒

	になった生活圏でもあるので、少し市域外も取り入れることは難しいですか。
事務局	他市の区域を入れるのは難しいかと思います。 都市構造としては草津市域になりますが、例えば文章のなかに近隣市との連携ということをおくということもあります。
委員	直接、検討対象にすることはできないと思いますが、大津湖南都市計画区域のなかに入っていますので、そういう視点から連携を取り、ご提示いただければと思います。 あくまで基礎自治体で責任を持つというところに最終的にはなるとは思います、大津湖南都市計画区域での連携を模索してください。
委員	資料5をみると公共交通に対する不満が多い。駅に向かうには便利ですが、そのラインから外れて横の方へ行こうとすると、例えば市役所へ行くバスを調べると本数が少ない。駅前が便利だという地域に住んでいるにも関わらずそれくらい思っているということは、まちから外れた郊外にお住まいの方が不便だというのは、最もだということをおし、20年後には対策ができているとよいと思います。
委員	将来都市構造図について、地域再生エリア同士つなげるネットワークをどう考えるのかという疑問がありますが、できるのならあった方がよいです。 地域再生エリアが相互に動くことでより活性化できる可能性もあり、実際にお住まいの方にとっては選択肢が増えます。地域再生エリアのネットワークは一方向だけではなく、地域再生エリア同士を網の目状は難しいので、緩いネットワークができればよいと思います。

4 閉会

松尾 副部長	<p>本日は、御多用の中、慎重なる御議論をいただき、誠にありがとうございました。 委員の皆様にはいただきました御意見、御提言を踏まえ、都市計画マスタープランの策定を進めてまいりたいと思います。</p> <p>今後も、皆様それぞれのお立場から、御意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしく御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>
-----------	---